

二酸化炭素排出量について(2021年確報値・2022年速報値)

(1) 2021年度(確報値)と2022年度(速報値)の二酸化炭素排出量

表 2021年度の二酸化炭素排出量(確報値)と基準年度、前年度との比較 単位(千t-CO₂)

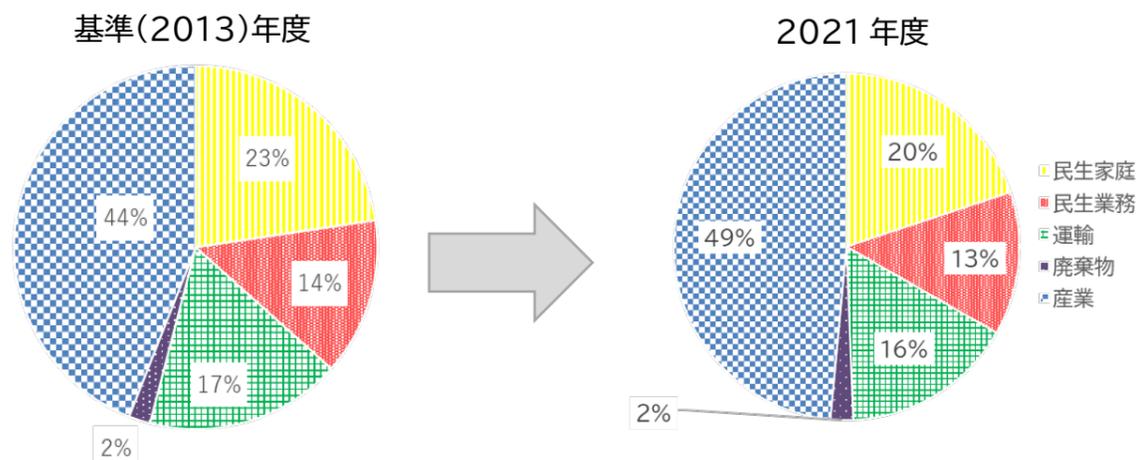
年度 部門	2013年度 排出量 【基準年度】	2020年度 排出量 【前年度】	2021年度			2022年度 排出量 (速報値)
			排出量	基準年度比	前年度比	
民生家庭	662.7	533.6	539.0	-18.7%	1.0%	590.3
民生業務	400.4	327.1	361.3	-9.8%	10.5%	355.2
運輸	499.3	433.2	436.1	-12.7%	0.7%	455.9
廃棄物	55.1	60.1	57.1	3.6%	-5.0%	55.7
産業	1,259.2	941.5	1,312.8	4.3%	39.4%	1,079.8
合計	2,876.7	2,295.5	2,706.3	-5.9%	17.9%	2,537.0
基準年度比 【合計】		-20.2%	-5.9%			-11.8%

※ 算出根拠である県エネルギー統計資料等の遡及改定により、過去の数値を更新しています。

※ 数値・比率は四捨五入で計算していることから合計が異なる場合があります。

2021年度は廃棄物部門を除き、排出量が増加した。

図:市域の二酸化炭素排出量の部門割合【2013(基準)年度・2021年度】



市域の二酸化炭素排出に占める各部門の割合は、民生家庭が減少し産業が増加した

(2) 2020年度から2021年度の増減理由

表 2020年度から2021年度の増減理由

部門	増減理由
民生家庭	・ テレワークの実施による自宅滞在時間の増加 ⇒電力使用量の増加
民生業務	・ コロナ禍からの経済活動再開 ⇒電力使用量の増加
運輸	・ コロナ禍からの経済活動再開 ⇒自動車燃料消費量の微増
廃棄物	・ コロナ禍明けによる宅配利用等の減少 ⇒一般廃棄物焼却量の減少
産業	・ コロナ禍からの経済活動再開 ⇒県全体の石炭や電気等のエネルギー消費量の増加

【参考】 2022年度までの二酸化炭素排出量の推移

表 基準年度から2022年度の二酸化炭素排出量の推移

